

事業所名 合志市社協「スペースアレンガ」

公表日：令和7年3月31日

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	5	7		<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物は指定基準以上の面積。今ある環境のなかで、こどもの特性、活動プログラム等の観点から集団づくりや部屋の用途について適宜検討している。 ・ にじの部屋（別棟の建物）の活用、屋外活動（屋外の敷地など）の導入、日々の整理整頓により、療育の向上やスペース確保に努めている。 ・ パニック等によるクールダウンの対応について、専用の部屋はないが、適宜場所を確保して個別対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物は指定基準以上の面積となっているが、指定基準そのものが豊かな支援環境とはほど遠いものであり、工夫を積み重ねている現状がある。 ・ より豊かな支援環境を整えていくために、自助努力のみならず、行政に対するソーシャルアクションの必要がある。
	2 利用定員やこどもの状態などに対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定基準に加えて、手厚い支援ができるよう加配を含めた職員数となっている。長期休暇時はさらに臨時的に職員の加配を行っている。 ・ 保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、作業療法士、公認心理師、管理栄養士等の有資格者を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員配置に関しても指定基準が豊かな福祉実践を展開していけるものとほど遠い内容となっている。 ・ 重度の障がい児の受け入れを継続していくために、項目1と同様に自助努力のみならず、行政へのソーシャルアクションの必要性がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等について、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 療育環境チームが中心となり、こどもの特性を踏まえた構造化（視覚支援）に取り組んだ。 ・ こどもや職員の数を考慮すると広さや収納スペース、多目的トイレの数等のハード面の課題はあるものの、建物そのものはバリアフリー対応となっており、こどもへ負担がかからないよう、状況に応じて適宜対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの（障がい）特性に関する理解をさらに深め、現環境における構造化（視覚支援）に関する取り組みを継続する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	3		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の清掃に加えて、委託業者による定期的なワックス・エアコン清掃、マット等のレンタル等を実施。また、美化感染チームが中心となり、感染管理の観点からも年間を通して清潔保持に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美化感染に関する年間計画を立案し、左記の取り組みを継続する。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に医療的ケア児、強度行動障害児、感覚過敏の児童など、配慮を要するこどもに対して適宜静養室やにじの部屋を活用している。 ・ またその他のこどもに対しても、部屋やスペースの使い方に関する個別の要望に応じ、適宜対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の取り組みを継続する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか。	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の事前／事後ミーティング、定例職員ミーティングにて、業務内容やその改善に関する話し合いを行っている。 ・ ①療育環境、②安全管理、③美化感染、④給食の4つのチームに分かれて業務改善に取り組んでいる。その内容の実現に向けて、進捗状況を可視化等のタスク管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度は①構造化（視覚支援）、②物品管理、③安全管理、④美化感染、⑤給食、⑥写真管理の6つにチームを改編する予定。 ・ 全職員が共通認識をもってPDCAサイクルに参画できるよう、今後も取り組みを継続する。
	7 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意見を把握し、業務改善につなげているか。	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回保護者アンケートを実施し、保護者の要望把握に努めている。いただいた意見は職員ミーティングや回覧等で情報共有し、要望の具現化や業務改善に取り組んでいる。 ・ 合志市社会福祉協議会ホームページ内に公表している。また、その旨を保護者にも周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の取り組みを継続する。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「語り、育ち合う職員集団の形成」を目標に、支援や業務に関する活発な意見交換ができるよう、ミーティングの強化に努めている。 ・ 必要に応じて人事考課の観点より管理者による職員面談を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングの内容は充実させつつ、時間を短縮するといった効率化を図る必要がある。 ・ 議論を深めていくために、各職員のファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーションに関する能力向上に取り組んでいく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に第三者評価を受審し、評価結果は熊本県社会福祉課ホームページに公表済み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果を踏まえ、今後も課題検討と目標設定、サービスの質の向上や改善に向けた取り組みを継続していく。
	10 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間研修計画を策定し、月次職員研修のほか、各職員が均等に外部研修にも参加できるよう、管理者にて業務調整を図っている。 ・ 今年度は主に発達障害者支援センター、児童発達支援センター主催の研修、強度行動障害支援者養成研修、医療的ケア児等支援者養成研修、児童発達支援管理責任者等専門コース別研修（障害児支援）を受講した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内勉強会は未実施であり、今後の課題。 ・ 人材育成プログラムの体系化に取り組み、学びあい育ちあう風土の構築、専門性の向上に努めていきたい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人、事業所理念や支援方針、提供する支援内容等についてまとめ、令和7年3月、ホームページ上に公表した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修等を通じて、適宜支援プログラムに触れる機会を設け、事業所の理念実現に向けた取り組みの基盤を築いていきたい。

適切な支援の提供	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）を作成しているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者面談のほか、関係機関からの情報収集等を含めたニーズや課題の把握に努めたうえで、わくわくシート（個別支援計画）を作成している。 ・今年度はアセスメントシート、れんがサポートシート（保護者からの情報提供シート）を刷新し、5領域の観点から情報収集を行った。 ・わくわくシートは子ども版、保護者版とに分かれており、子どものストレングスに注目した内容、表記に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員（個別支援担当者、機能訓練担当者、児童発達支援管理責任者）による協議の上でわくわくシートを作成している。 ・計画立案の前後に個別支援会議を開催し、支援方針を共通理解したうえで支援できるよう周知に努めている。 ・ケースファイルもわくわくシートが常に確認できる様式となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援前ミーティングや個別支援会議において、わくわくシートの内容に触れる機会を多く設けている。 ・全職員で協議することにより、担当職員以外にも支援内容が共有され、多職種の意見が反映された支援につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。 ・臨時職員へ、これらの取り組みをさらに浸透させていくことが今後の課題。
	15	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度報酬改定を踏まえ、5領域の観点から情報収集できるよう、アセスメントシート、れんがサポートシート（保護者からの情報提供シート）を刷新した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に情報収集や観察法に基づくアセスメントを行っており、各職員の主観が入りやすい。観察する行動や場面をあらかじめ決めたり、また複数の職員で観察することで、より客観的なアセスメントができるよう努めている。 ・次年度は機能訓練に関するアセスメントツールの開発に取り組む予定。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移動支援」、及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度報酬改定を踏まえ、保護者版わくわくシート様式を左記の内容が網羅された様式に刷新した。分かりやすく伝達できるよう、平易な表現に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとに担当者が月間活動プログラム案を作成し、職員ミーティングでその内容を検討している。さらに、その案をもとに当日担当のリーダーが活動内容の詳細を考案している。職員間で子ども一人ひとりの障害特性や個別支援課題を共有し、支援の視点（ねらいや目標、配慮点）を明確化しつつ、チームで活動プログラムの立案に参画している。 ・今年度は令和6年度報酬改定に示された5領域との関連を意識して、活動プログラムの立案に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域とのつながりを意識して活動プログラムを立案した。 ・季節行事や地域行事への参加、ボランティアとの交流などの地域交流、歯科衛生士による歯科教室（歯みがき指導）、ストリートダンス教室などの外部講師による活動を継続している。 ・子どもたちの成長や変化を踏まえ、新しい要素を取り入れた活動、発達段階に応じた活動を模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画（個別支援計画）を作成し、支援が行われているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動がメインだが、スケジュールやスペースを工夫して、適宜個々の支援課題に取り組む個別活動の時間を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は専門的支援（主に機能訓練）の実施に向けた体制整備を行い、わくわくシートの達成に向けた支援の充実化に取り組んでいく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの来所前に支援前ミーティングを行い、活動内容や職員配置、送迎、子どもの前回利用時の様子等の確認を行っている。 ・一人ひとりの障害特性や個別支援課題について職員間で共有し、支援の視点（ねらいや目標、配慮点）を明確化しながら活動プログラムを有効活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。ミーティングの効率化に関しては前述の通り。
21	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援後ミーティングを実施し、ケース記録参照のもと支援内容や子どもの様子について振り返りを行っている。 ・これらの項目のほか、家庭からの連絡事項等をケース記録や申し送りノートに記入し、当日不在の職員にも伝達・共有できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。ミーティングの効率化に関しては前述の通り。 	

	22	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを意識できる記録様式となっており、わくわくシートの内容を反映した記録となるよう心がけている。日々のミーティングではその記録を参照し、活動プログラムや個別支援の検討を行っている。 ・支援終了後ミーティングでは、権利擁護（困難事例や身体拘束）、安全管理（ヒヤリハット、危険箇所）、食事に関することも振り返り、記録による全体共有に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に一度個別支援会議を開催し、多職種連携のもとわくわくシートの支援内容や達成度、今後の課題について多角的に振り返りを行い、再計画の必要性について検討している。 ・PDCAサイクルを可視化したモニタリング・評価表を運用し、個別支援の質の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン総則にある4つの基本活動を複数取り入れた支援を行っているが、ガイドラインに関する理解を深めていくことは今後も必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度にはガイドラインが改訂され、5領域の支援など新たな視点にも触れられている。職員全体でガイドラインに関する学習の機会を確保し、その内容に則った支援や事業運営を展開していくことが今後の課題。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意思表出のために、視覚的支援（イラストや写真など）を含めた情報提供、選択肢の明示に取り組んでいる。また代弁や意思確認を行いながら、自己決定を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定や意思決定は、障害者権利条約や障害者基本法等に保障されている障害のある人の権利である。障害児・者福祉に関する理念や思想、意思決定支援やその前提となる意思形成支援に関する学びをさらに深め、権利擁護の取り組みを継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した物が参画しているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者の出席を原則としているが、業務調整を行い、個別支援担当者、機能訓練担当者も出席できるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議やケース会議には積極的に出席し、関係機関との情報共有や支援方針の検討に努めている。 ・今年度は機能訓練に関する地域連携の観点より、医療機関におけるリハビリテーション場面に同行し、主に機能訓練担当者との連携体制の構築に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換・下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応・トラブル発生時の連絡等）を適切に行っているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校主催の事業所連絡会などを通して、学校との連携体制構築に取り組んでいる。学校からの福祉サービスにつながない子どもの個別相談にも適宜応じている。 ・学校への送迎時、子どもの様子や支援経過等について情報共有を行っており、今後も継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めは各学校に訪問し、当事業所に関する支援方針や取り組み、在籍児童に関する情報共有に取り組んでいたが、コロナ禍以降は不十分なことがあった。 ・地域の小・中学校は各校で対応も異なるため、それぞれの学校と連携のあり方を協議しながら適宜対応している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用に伴い、相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでかかわりのあった関係機関への情報収集を行っている。 ・サービス担当者会議に出席されない関係機関にも電話連絡にて情報収集するなど、新規受け入れに当たって子どもの理解を深めるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所主催のサービス担当者会議へ出席し、これまでの個別支援の経過や当事業所での本人の姿などについて情報提供を行い、移行支援に取り組んでいる。 ・利用終了後も必要に応じて関係機関へ情報提供を行うなど、切れ目ない支援が提供できるよう各障害福祉サービス事業所等との連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	31	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センター、発達障害者支援センター等主催の研修に積極的に参加している。 ・今年度は児童発達支援センターへ機能訓練の取り組みに関するスーパービジョン、コンサルテーションを依頼し、助言を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。 ・熊本県の地域療育体制について全職員が理解し、困難事例等の個別ケースについても相談・助言が受けられるよう、二次・三次圏域の機関との連携に努めていく必要がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人内に放課後児童クラブや児童館があり、「同じ地域で暮らす同世代の子どもたち同士の育ちあい」を目的に、地域の子どもたちと交流する機会づくりを行っている。 ・今年度は主に長期休暇中に連続した交流プログラムを立案し、地域交流に取り組んだ。 ・主に長期休暇中に連続した交流プログラムを立案し、地域交流を実施した。交流を重ねることで友だち意識が芽生え、それぞれに楽しくかかわりあう姿が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も左記の取り組みをさらに充実させ、地域福祉やソーシャルインクルージョンの推進に努めていく。

保護者への説明	33	(地域自立支援)協議会へ積極的に参加しているか。	6	6	・菊池圏域の協議会(こども部会)の活動に管理者を中心に参加している。協議会で検討されている地域課題やそれに対する取り組みについて、会議資料を回覧して職員間の周知を図っている。	・菊池圏域の各市町の障害児通所支援事業所数に偏りがあり、地域性も多様。合志支部に関しては障害児通所支援事業所数の増加といった特性上、代表事業所のみ会議出席しているため、実質的な参加にはほど遠い現状がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	11	1	・連絡帳、電話やLINE等のツール、送迎時の面会など、日常的な家庭とのコミュニケーションを大切に、こどもの状況や発達課題に関する共通理解ができるよう努めている。 ・家族面談や家庭訪問も定期的に実施し、子育てや家族の育ちに関する支援体制を整備している。	・今年度、職員間の情報共有の方法に関する要望があった。家庭からの伝達事項に適切対応できるよう、今後も職員全員が共通の意識を持ち、留意していく必要がある。
	35	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。(ペアレントトレーニングを意図した相談支援を含む)	11	1	・現在、ペアレント・トレーニングと銘打った取り組みは実施できていないが、適宜保護者に対してこどもとのかかわりや子育てに関する相談支援を行っている。	・ペアレントトレーニングや家族対象の研修会等の実施を今後の課題とし、家族応援プロジェクト(仮)の体系化に取り組む必要がある。
	36	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	2	・新規契約契約や障害福祉サービス報酬改定があった際には、各種書類に基づいて説明(個別・グループ面談)を行っている。今年度も実施済み。 ・新規利用の際にはれんがの概要や留意事項を記載した「ご利用のしおり」を配布している。	・左記の取り組みを継続する。 ・次年度は「ご利用のしおり」を改訂予定。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	1	・こどもや保護者との面談を行い、ニーズや課題の把握とともに支援方針や支援方法に関する意向の確認も同時に行っている。この取り組みにおいてもこどもの権利擁護の観点を大切にしており、視覚的支援(イラストや写真など)を含めた情報提供、選択肢の明示、代弁等により、意向を確認している。	・左記の取り組みを継続する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12	0	・わくわくシートを提示しながら支援内容について説明し、不明な点等を確認しながら同意を得ている。可能な限りこどもにも同席してもらい、分かりやすい言葉や視覚的情報を用いて内容を伝えている。	・左記の取り組みを継続する。
	39	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	・保護者に対して、適宜こどもの様子や発達課題等について共通認識を図るとともに、こどもとのかかわり方や子育てに関する相談支援を行っている。 ・家族からの相談には迅速かつ丁寧に対応し、信頼関係の構築につなげることを重視して支援を行っている。	・左記の取り組みを継続する。
	40	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	0	・今年度は保護者ときょうだいを対象に2回家族交流会を実施した(芋あんだんご汁会、ポッチャ大会)。「こどもの事業所での様子が見れてよかった」、「他のご家族と子育てなどの話ができてよかった」などの意見が聞かれた。	・行事の企画・開催だけでなく、保護者間の連携やつながりづくりを支える新たな仕組み(障がい種別、年代などテーマごとの小グループ開催)について模索する必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1	・苦情、要望について、苦情受付担当者(管理者)や児童発達支援管理責任者を中心に迅速かつ丁寧な対応を心がけている。 ・職員ミーティングにて改善策を検討し、全職員が共通認識をもってその後の対応ができるよう、ヒヤリハットレポート等を活用した情報共有に努めている。苦情要望は貴重な意見と捉え、支援内容を振り返る機会としている。	・左記の取り組みを継続する。
	42	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に発信しているか。	11	1	・毎月「スペースあれんがだより」を発行し、写真を多く掲載し、こどもたちの様子や活動内容に関する情報発信を進めている。 ・また合志市社協の広報誌として、毎月「ほっとライン」を発行し、合志市社協や地域福祉に関する情報を発信している。	・左記の取り組みを継続する。 ・その他、公式LINEアカウントを活用した個別の写真提供、れんがの取り組みに関する広報活動を行う予定。
	43	個人情報に十分注意しているか。	12	0	・「個人情報取扱い業務概要説明書」に基づいて保護者へ説明し、書面にて同意を得たうえで個人情報を管理している。 ・適切な個人情報の取り扱いに留意した日常業務の遂行を目的に、必要に応じてれんが安全管理委員会にて個人情報保護に関する研修を適宜実施している。	・左記の取り組みを継続する。
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	1	・わくわくシートについて、こども用と保護者用との2種類を準備して、こども用には理解度に応じてルビを振ったり、使用する文言等を変更するなどして、合理的配慮に取り組んでいる。	・左記の取り組みを継続し、理解しやすい書類、伝達しやすいツール、相談支援体制の整備など、今後も事業所としてアクセシビリティを果たせるよう取り組みを進めていく。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方を事業所に招待したり、子どもたちが活動の一環として出向いていくなど、地域に開かれた事業運営を行っている。 ・今年度も夏祭りやクリスマスの時期に地域交流の機会を設定した。また日常的に音楽活動、お話し会、木工教室など、多彩な活動にボランティアの方にご協力いただいている。 ・2025年2月に『れんがのなかまたち展』を開催し、多くの地域住民にご参観いただいた。年中行事となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営主体が社会福祉協議会であり、社協内の他課とも連携した地域福祉推進の取り組みを継続する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを策定し、安心・安全に利用できるよう適宜対応している。職員研修等にて事業所内周知を図るほか、各委員会活動において内容の見直しや改訂を行っている。 ・感染管理に関する取り組みや緊急事態発生時など、公式LINEアカウントを活用してタイムリーに情報発信し、家庭との連携を図っている。 ・情報開示に関して、保護者等が自由に閲覧できるように各種マニュアルを含んだファイルを整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを行っているが、保護者の周知には至っていない。周知方法を再検討する必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・れんが防災委員会が中心となり、年2回の避難・防災訓練、年1回の不審者対応訓練を実施した。また、合志市社協消防計画、合志市社協事業継続計画（BCP）についても整備済み。 ・今年度は不意に起こり得る場面を想定した訓練に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続しつつ、訓練を形骸化させないために、適宜内容や方法を検討する必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの際にこどもの健康面について情報収集し、看護師を中心に情報管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬依頼書や薬剤情報提供書、医療的ケアの実施等に関する書類管理を行い、個別支援の一環として全職員が情報共有できる体系の構築に取り組む必要がある。 ・次年度は健康管理の強化に向けて、個別支援における担当看護師を配置する予定。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に保護者よりアレルギーに関する情報を収集し、その内容を管理栄養士等の他職種も共有しながら、食事やおやつを提供している。 ・現在、家庭へ病院等での検査結果、医師の指示書（学校用）の提出を依頼し、それに基づいた危機管理対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。 ・食物アレルギー対応に関しても個別の担当看護師が中心となり、取り組みを進めていく予定。
	50	安全計画を作成し安全管理に必要な研修や、訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・れんが安全管理委員会、れんが防災委員会との共同のもと安全計画を作成している。日々の安全確認業務を反映した計画となるよう、年度ごとに加筆修正を行っている。 ・不審者訓練に関しては、合志市（危機管理調整官）の協力も得ながら実施している。 ・防犯対策の一環である防犯カメラや防犯チャイムについて、定期的に使用方法の確認や安全点検を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。 ・月次職員ミーティングにて安全計画を確認したうえで安全管理業務を執行する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知しているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースアれんがだよりや公式LINEアカウントを活用し、家族等へ安全管理や防災に関する情報発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の方法以外にも保護者への周知のあり方を再考し、安全確保に関する保護者との連携体制の構築に取り組む必要がある。 ・防災訓練に関して、近隣の住民や関係機関の協力促進が今後の課題。
	52	ヒヤリハットを事務所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングにおいて、小さな事例でも意見にしたり、記録に落とすことの徹底を通して、職員の意識向上を図っている。 ・れんが安全管理委員会や事業内安全管理チームがイニシアチブを取り、レポートや報告書を踏まえてヒヤリハットや事故の再発防止に向けた取り組みを検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・れんが権利擁護委員会が中心となり、職員の入職時に虐待防止、身体拘束に関する研修を行うほか、年1回全職員対象に同様の研修を開催し、権利擁護に関する意識向上に取り組んでいる。 ・研修の形骸化に取り組み、今年度は外部講師による研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続する。 ・臨時職員や学生アルバイトまで、権利擁護に関する取り組みを浸透させていく必要がある。 ・新任職員研修について、虐待防止のほか運営指導内容を踏まえて一体的に取り組むこととする。
54	どのような場合に止むを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了承を得たうえで、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）に記載しているか。	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多動・衝動性の強い子ども、パニック等による自傷他傷の可能性のある子どもに対して、わくわくシートにおいて身体拘束等の適正化に関する内容を記載し、保護者の同意を得たうえで個別対応を行っている。 ・れんが権利擁護委員会にて定期的に身体拘束の実際（身体拘束の有無、記録に基づく支援の検証など）について考察している。 ・強度行動障害支援者養成研修受講者3名を配置し、れんがサポートプロミス（強度行動障害に関する支援計画シート）を作成したうえで支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の取り組みを継続し、強度行動障害のある子どもの支援や意思決定支援の強化に取り組んでいく。 	